

地域創生を産業集積・マーケティング視点から考える

12:45～ 受付開始

3月2日（月）13:00～15:30

主催：佐賀大学肥前セラミック研究センター
甲南大学ビジネス・イノベーション研究所
日本マーケティング学会地域創生マーケティング研究会

第1部 研究報告

第1報告：地方自治体をハブとする企業間連携と地域創生

日本大学 井上 真里氏

第2報告：SDGsへの取り組みと地域創生の関連性

東洋大学 武市 三智子氏

第3報告：博多名物に学ぶ“一粒万倍”の地域創生マーケティング

関東学院大学 天野 恵美子氏

第4報告：「ワイン県」の確立と発展：山梨県のワイン産地ブランド確立プロセス

中央大学 田中 洋氏

第2部 パネルディスカッション

ファシリテーター： 甲南大学 西村 順二氏

パネリスト： 井上 真里氏／武市 三智子氏／天野 恵美子氏／ 田中 洋氏



井上 真里氏



武市 三智子氏



天野 恵美子氏



田中 洋氏

コーディネーター・司会： 佐賀大学 山口夕妃子

お申し込み先
お問い合わせ先

佐賀大学 肥前セラミック研究センター

西松浦郡有田町大野乙2441-1 佐賀大学 有田キャンパス

TEL : 0955-29-8888 FAX : 0955-43 - 3033

Email : h-center@mail.admin.saga-u.ac.jp

◆申込方法：1. 氏名（ふりがな）2. 所属あるいは住所 3. 電話番号/E-mail
アドレス 以上を記入の上、TEL/FAX/Email いずれかにて申込み下さい

◆申込締切：2020年2月28日

事前申し込み制

定員50名 参加費：無料



佐賀大学

地域創生を産業集積・マーケティング視点から考える

【第1報告 「地方自治体をハブとする企業間連携と地域創生」 要旨】
日本大学 井上 真里氏

地域創生の核として、地方自治体や各種団体が特産品をはじめとするモノや観光名所・イベントといったコトをいかに創出するかという視点が注目されて久しいですが、それは当該地域内でモノやコトを創出できる諸条件（人口、交通、技術など）が整っていることが前提ではないかと思われます。しかしながら、実際のところ日本における多くの地域は自然（冷涼な水や気候など）が十分にあってそれをモノやコトにするシステムに乏しいといわざるを得ません。本報告では、自然はあっても他の資源に乏しい地域がシステム構築をいかに進めているかを明らかにするために、北海道・上川町役場、上川大雪酒造、フラテッロ・ディ・ミクニおよびスノーピークとの関係を取り上げます。

【第2報告 「SDGsへの取り組みと地域創生の関連性」 要旨】
東洋大学 武市 三智子氏

いまや持続可能な開発目標（SDGs）は、問題解決のための法整備や、欧米のSDGs先進国からの圧力に対応するための義務的な目標ではなく、企業の利益追求のために積極的に取り組むべきマーケティング戦略の一つとなっています。地方自治体にとっても同様に、SDGsへの取り組みは住民満足度の向上や新たな事業機会の創出などにもつながるため、積極的な取り組み事例が増加しています。SDGsへの取り組みを元にした地域創生は、住民や企業の意識の向上だけでなく、行動が伴って初めて実現します。今報告では、企業や地方自治体のいくつかの事例をもとに、SDGs行動が起きるために必要な鍵を探っていきたいと思っています。

【第3報告 「博多名物に学ぶ“一粒万倍”の地域創生マーケティング」 要旨】
関東学院大学 天野 恵美子氏

本研究会は、地域創生を「地域ごとに付加価値の高い産業集積や企業を育成し、雇用の創出や地域経済の活性化を担う方策全般」として定義しています。本報告では、福岡・博多を代表する地域産品として定着している明太子を事例として取り上げ、明太子を特産品として福岡・博多の地に根付かせ、産業集積を構築することになった人物と企業について紹介します。この特産品が福岡の地で産業として成長するまでの軌跡を改めて明らかにすることで地域創生について考察します。

【第4報告 「『ワイン県』の確立と発展：山梨県のワイン産地ブランド確立プロセス」 要旨】
中央大学 田中 洋氏

本研究は、山梨県のワイン産業の発展において、「ワイン県」として自らを世界に通用するワイン産地ブランド化する努力がどのようなプロセスでなされてきたかを明らかにすることを目的としています。山梨県では、2006年度（平成18年度）に「山梨ワイン産地確立推進計画」（平成19年度～平成28年度）を策定し、高品質なワインの産地としてのブランドを確立してきました。例えば、「甲州」「マスカット・ベリーA」の国際ブドウ・ワイン機構（OIV）への品種登録や地理的表示「山梨」の指定実現などです。

しかし、山梨のワイン産地は、現在、国内外での競争激化や農家の高齢化・後継者不足などの課題を抱えており、日本を代表するワイン産地として維持するために産業集積としての新たな努力が求められています。本報告では、デスクリサーチと現地ヒアリングに基づき上記研究課題を明らかにすることを目指しています。なお、本研究活動は、森口美由紀氏（元日本GE）との協同作業によって行われています。

肥前セラミックセンター 宛 参加申込書 (FAX用)

お名前（ふりがな）	所属／住所	電話／Email